

令和 7 年度モニタリングシート

【施設名等】

施 設 名	大洲市「道の駅」清流の里ひじかわ	位 置	大洲市肱川町宇和川3030番地
指定管理者名	株式会社 清流の里ひじかわ	所管課	肱川支所 TEL:0893-34-2311

【施設の概要】

設 置 年 月 日	平成13年12月1日	構 造	本館棟 木造平屋建て 農産物販売棟 木造平屋建て レストパーク 木造平屋建て
設 置 目 的	道路利用者のための休憩機能、都市および周辺地域との人、物、情報等の交流を促進し、経済の情報発信基地とする。		
施 設 機 能	・本館棟 物産販売所 地域食材供給施設 交流室 ・農産物販売棟 農産物販売所 レストパーク ・情報提供施設 公衆用トイレ ・駐車場 RV パーク		
利 用 料 金 等	利用料金については、大洲市総合交流拠点施設条例に規定する範囲内で、市長の承認を得て指定管理者が定める。		
開 館 ・ 閉 館	休館日 1月1日及び拠点施設の管理運営上必要がある日 開館時間 物産販売所 午前 8時から午後6時まで 地域食材供給施設 午前11時から午後8時まで 交流室 午前 8時から午後6時まで 農産物販売所 午前 8時から午後6時まで		
指 定 管 理 業 務 内 容	①拠点施設利用者の施設又は設備の利用の許可に関する業務 ②拠点施設の維持管理に関する業務 ③拠点施設の利用に係る料金の収受に関する業務 ④拠点施設の設置目的を発揮するための事業に関する業務		
施 設 管 理 体 制	株式会社 清流の里ひじかわ職員(正職員6名・臨時職員4名)		

【施設利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
R7 年度	11,143 人	10,727 人	8,796 人	7,343 人	9,515 人	9,001 人	10,319 人
R6 年度	10,350 人	10,804 人	9,834 人	7,421 人	8,822 人	9,460 人	10,797 人
比 較	793 人	△77 人	△1,038 人	△78 人	693 人	△459 人	△478 人
	11月	12月	1月	2月	3月	計	
R7 年度	10,178 人	9,085 人	5,911 人	5,485 人	7,834 人	105,337 人	
R6 年度	10,152 人	9,049 人	6,554 人	5,812 人	9,294 人	108,349 人	
比 較	26 人	36 人	△643 人	△327 人	△1,460 人	△3,012 人	

【指定管理者としての収入・支出(決算)】

収入内訳	収入金額	支出内訳	支出金額
売上高	40,326,966 円	仕入高	16,404,039 円
テナント等収入	1,244,746 円	人件費	24,640,768 円
受取利息	42,294 円	管理経費	20,609,004 円
雑収入	47,455 円	雑損失	18,010 円
指定管理料	22,410,000 円	法人税等	209,500 円
合 計	64,071,461 円	合 計	61,881,321 円

【サービス向上に向けた取り組み】

R7 年度	令和7年度は酷暑など気候変動による外出控えの影響は大きく見られなかった一方で、天候不順等の影響により道の駅の目玉商品である新鮮な野菜について品薄となる時期が発生した。そのため、昨年度に引き続き、他の「道の駅」との連携や地元農家との調整により不足する野菜等の仕入を行うことで顧客満足度の向上に努めた。 10月1日からは地域食材供給施設において新たな事業者がレストラン運営を開始、道の駅本館において食の提供が可能となり、多くの方に景色を楽しみながら食事ができる憩いの場としてご利用いただいている。
R6 年度	令和6年度は全国的に記録的な猛暑となり、その気象状況から農産物の収穫量が減少し農産物販売所の棚の空きが目立つこととなった。そのため、他の「道の駅」との連携や、地元農家との調整により、不足する野菜等について仕入販売を行うことにより、サービス低下の軽減を図った。また、レストラン事業者撤退後、月1回の頻度で他団体による惣菜やお菓子販売をカフェとして実施、これに併せて、景色を楽しみながら食事出来る場所としてレストラン部分を開放することで、利用者に憩いのひと時を過ごしていただいた。

【利用者から要望と対応状況】

利用者からの苦情・要望等	利用者からの苦情・要望への対応
レストランを再開してほしい	公募を行い、10月1日から新事業者によるレストラン営業を開始した

【指定管理者の自己検証】

令和7年度についても、来訪者は地域内外に関わらず減少傾向となっている。この減少に対して歯止めをかけることはできなかったが、販売方法の工夫や接客サービスの向上、取扱商品の見直しを行うことで売上増につなげることができた。 このような状況の中、10月1日に営業開始となったレストランは、飲食部門として道の駅でも特に集客の要となるため、連携を図りながら、相乗効果により集客力向上に努めていきたい。また、道の駅の経営改善について業務委託により経営戦略案を策定し、取り掛かりとして物産・農産品売場の統合により導線の改善を図ったところである。今後は部門別収支の把握を徹底し、分析結果などを運営に反映することで、更なる経営改善に取り組んでいきたい。
--

【施設所管課の検証・評価】

法定点検や報告など、施設管理については概ね良好であり、仕様書等に基づいた管理・運営が行われている。 昨年度に引き続き来訪者は減少傾向にあるが、その要因として、主力商品である新鮮な農作物の確保が困難となり、商品が不足気味になっていること、交通量の変化などが考えられる。一方で、職員一人一人の接客サービスの向上や積極的な声掛けなどによる販売促進の効果が見られ、昨年度と比較し売上高は増加している。 年度末においては、物産・農産品売場の統合により導線の改善を図ったところであり、今後は、その効果を部門別収支により分析、改善点を洗い出し、対策を講じることで健全な施設運営に取り組んでいただきたい。
